

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	多機能型児童発達支援ルーム らぼる		
○保護者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年1月31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7名	(回答者数) 3
○従業者評価実施期間	令和7年4月1日		～ 令和8年1月31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8名	(回答者数) 8名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月27日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	法人で感覚統合用の特殊な器具を有しているため、重心児が体験し難いダイナミックな動きや身体の使い方を体験経験できる。	重度な障害により常時デバイスが必要なお子さんに対しても、療法士が評価を行い、安全性が担保された中で普段はできない経験を提供している。	現在は同法人であるあすたむのスペースと器具を使用しているため、使用できる時間帯が限られている。今後はらぼる専用の器具の購入を検討していく。
2	長時間でのサービス提供を行っているため、生活に即した課題に対応が可能である。	障害の程度により一般的な方法では解決困難な生活課題があるため、PT,OT,STなどの専門職に意見を求め、解決に向けてのアドバイスをもらっている。	専門職を有している知識や技術、課題解決のための専門的な工夫を現場で汎化させ、保育士や児童指導員の対応力強化を図っていく取り組みを実施している。
3	グループ事業所である訪問看護ステーションと連携を図り、看護師や療法士との関わりを持ちやすい。	基本人員に加え、毎日訪問看護ステーションより看護師が一名勤務している。それにより、適切な状態観察を行い、安全に活動提供が行えている。	管理者はOTであるが、その他PT,STは適宜助言を行う程度であるため、事業所の強みである「多様な体験」をさらに増やしていくため、専門職による関わりを充実させていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用人数によってはスペースが手狭となることがある。	重心事業所とはいえ、自分で動くことのできるお子さんも複数いるため、デバイスの必要なお子さんとゾーニングするほどのスペースを確保することが困難。	同法人であるあすたむのスペースを利用したり、屋外での活動を行ったりして、スペースの狭さを補っている。
2	単独事業所であるため、それぞれの利用児に合った座位保持装置やベッド、移乗器具など、物品を十分に用意することが困難。	利用児の年齢幅や体格差が大きく、どのお子さんにも適応する装置がない。利用児全員分を用意することは難しく、通常の椅子などを工夫して代替的に使用するしかない状況である。	サイズアウトした装置などを譲り受け、療法士が微調整して使用している。今後も潤沢に物品を揃えることは困難であるが、姿勢調整が特に重要なお子さんたちであるため、その都度工夫しながら重心児が有しているパフォーマンスを最大限発揮できるよう取り組んでいく。
3			